

## 内水はん濫防災ガイド 保存版

災害は突然起こります。あなた自身とあなたの大切な人を災害から守るために、この「羽曳野市内水はん濫ハザードマップ」を活用して、防災について私たち一人ひとりができることを考えてみましょう。

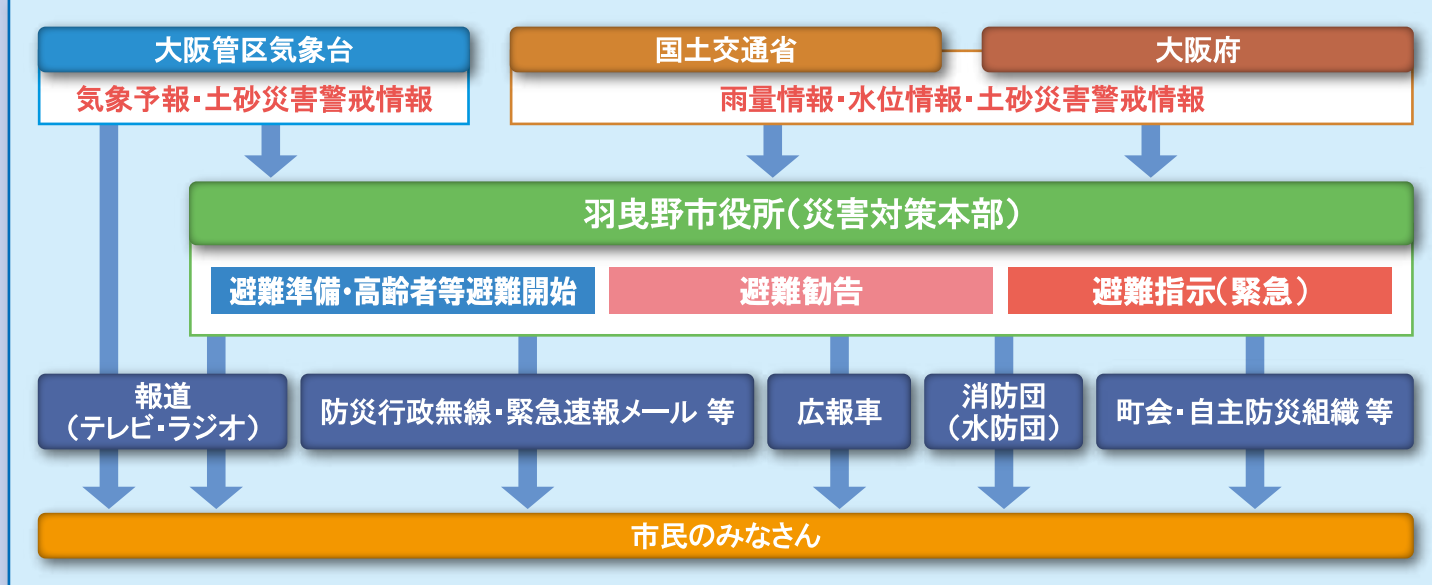
### 避難情報について

羽曳野市では、災害発生のおそれのあるときや、災害が発生したときには『羽曳野市災害対策本部』を設置します。また、災害の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発表します。避難情報の内容と周囲の状況に注意して適切に避難しましょう。

### 避難情報の種類及び、とるべき行動

種類	発表時の状況	とるべき行動
避難準備・高齢者等避難開始	災害による被害発生の可能性が高まってきている状態	テレビ等から最新の情報を収集する、避難の準備をする(持出し品の準備等)、避難に時間がかかる人は避難を開始する
避難勧告	災害による被害発生の可能性が明らかに高まってきている状態	避難所への避難を開始する 逃げ遅れたときや、周囲の状況を確認し、屋外への避難がかわって危険な場合は、家屋の2階や、斜面とは反対側の部屋など、屋内より安全な場所に移動する
避難指示(緊急)	切迫した状態で、被害発生の可能性が極めて高い状態	ただちに避難を開始する

### 避難情報伝達の経路



### わが家の防災メモ

わが家の避難先(親類宅・避難所など)	家族がはなればなれになった時の集合場所		
家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号

### いざというときの連絡先

消防119番・警察110番

名称	電話番号	名称	電話番号
羽曳野市役所	072-958-1111	羽曳野市水道局	072-958-1111
羽曳野警察署	072-952-1234	大阪ガス(ガスもれ専用)	0120-3-19424
柏羽藤消防組合消防本部	072-958-0119	大阪ガス(その他)	0120-3-94817
関西電力お客様センター	0800-777-8026(通話無料)	NTT(電話の故障)	113

### 災害用伝言サービス

地震や洪水などの大災害発生時は、電話利用が急激に増加し、電話がつながりにくい状況が続くことがあります。このような場合は、以下のサービスが開設されます。

**災害用伝言ダイヤル 171**

このサービスは、大規模な災害が発生した場合、「声の伝言板」(安否情報)の役割をする電話サービスです。被災地内とその他の地域の人々との間などで、伝言の登録・再生をすることができます。【体験利用日】…毎月1日・15日、正月三日が、および防災週間とボランティア週間。

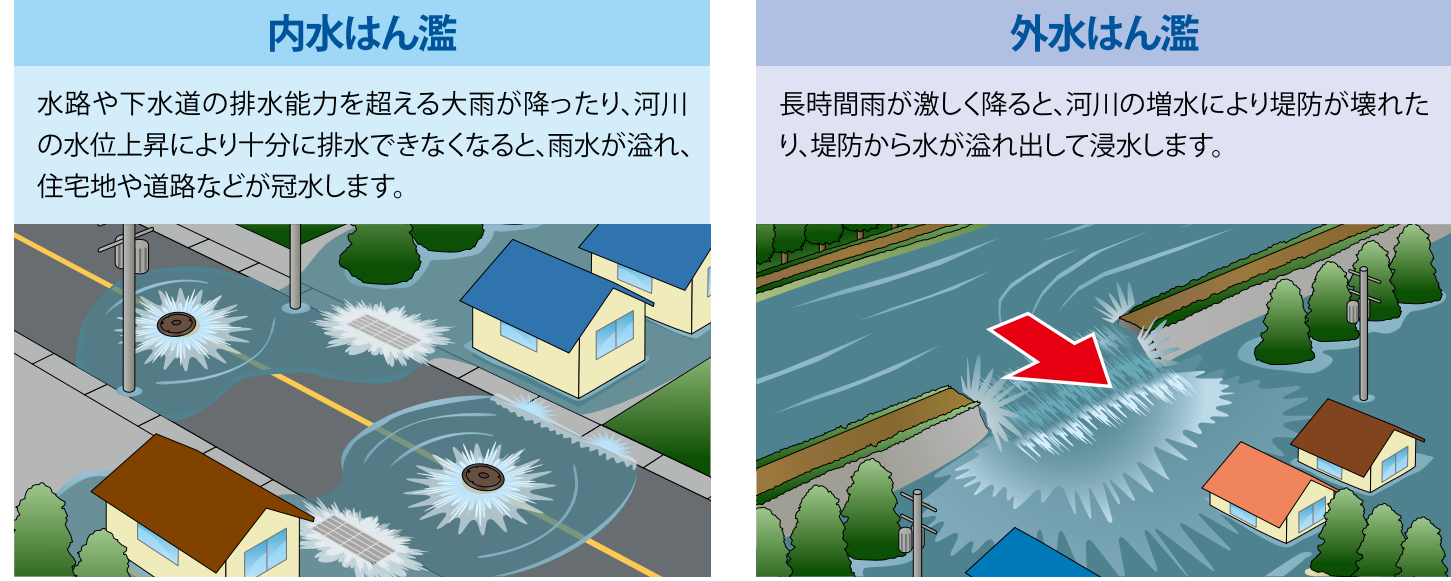
**災害用伝言版(web171)** <https://www.web171.jp/> ← 左記へアクセスし、案内に従って操作してください

スマートフォン・携帯電話・PC等から災害用伝言版(web171)にアクセスすることで、テキストによる安否情報(伝言)の登録・確認を行うことができます。【体験利用日】…災害用伝言ダイヤルと同様。

※上記の他に携帯電話各社から「災害用伝言板サービス」が提供されます。利用方法については各社ホームページ等でご確認ください。

### 内水はん濫と外水はん濫

洪水には、降った雨が水路や下水道などで排水しきれなくなることにより起こるはん濫(内水はん濫)と、川の堤防が壊れたり堤防から水が溢れたりして発生するはん濫(外水はん濫)があります。まずは、洪水の発生する仕組みを理解して、避難所まで安全に避難できるよう経路を確認しておきましょう。



### 雨の強さの表現と降り方 (1時間雨量)

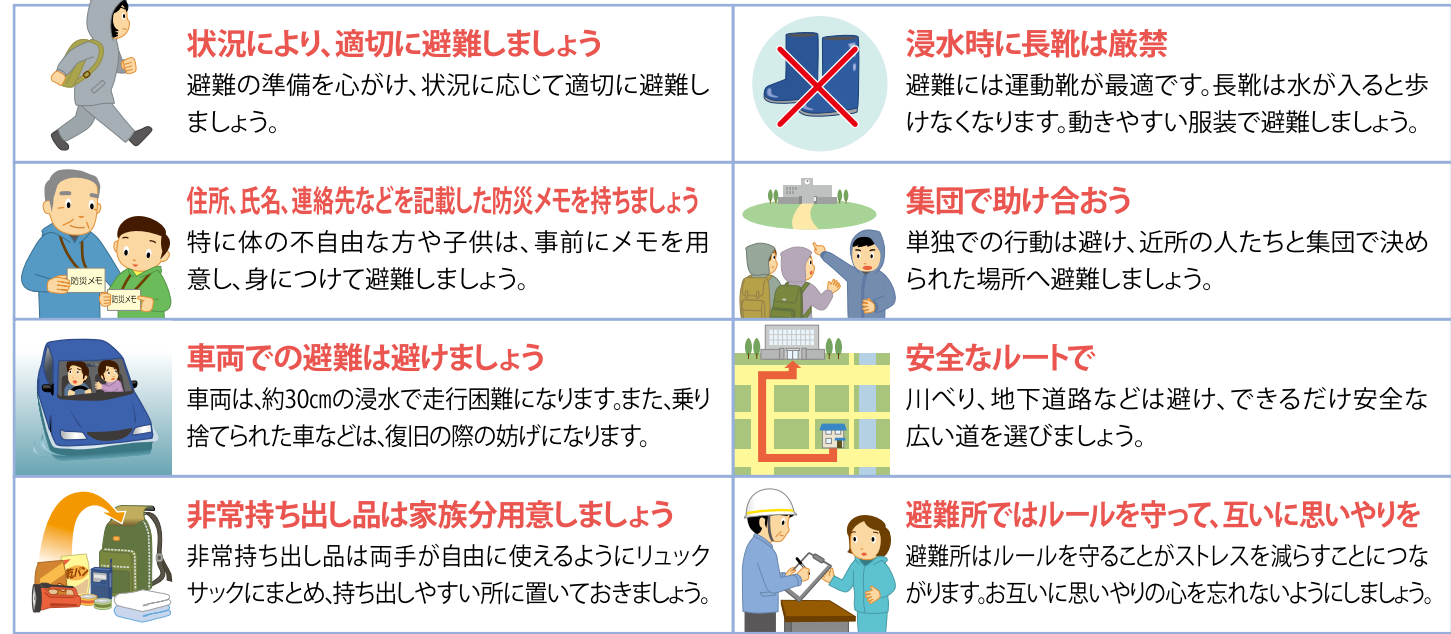
下の表は、雨の強さと降り方の目安、それに伴う災害の危険性を示したものです。普段から雨の様子に注意し、警報や避難勧告が出る前でも、危険と判断すれば自主的に避難することが大切です。

	やや強い雨 10~20mm未満	強い雨 20~30mm未満	激しい雨 30~50mm未満	非常に激しい雨 50~80mm未満	猛烈な雨 80mm以上
1時間雨量と予報用語					
人の受けるイメージ	●ザーザーと降る。	●どしゃ降り。	●バケツをひっくり返したように降る。	●滝のように降る。(ゴロゴロと降り続く)	●息苦しくなるような圧迫感がある。 ●恐怖を感じる。
人への影響と屋外の様子	●地面からはね返り足元がぬれる。	●傘をさしてもぬれる。車の場合、ワイパーを速くしても見づらい。	●道路が川のようになる。	●傘はまったく役に立たなくなる。	●水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。
災害の危険性	●この程度の雨でも、長く続くと注意が必要。 ●小規模のかけ崩れのおそれがある。	●倒滑や水路、小さな川があふれ、道路冠水のおそれがある。	●山崩れ、かけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	●土石流が起これやすくなり、多くの災害が発生する。	●雨による大規模な災害の発生のおそれが強く、最悪な警戒が必要。

※表に示した雨量が同じであっても、降り始めからの総雨量の違い、地形や地質の違いによって被害の様子は異なることがあります。この表では、ある雨量が観測された際に通常発生する現象や被害を記述していますが、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。

### 避難の心得

いざというときのために、日頃から避難に必要なものを整理し、避難の手順について話し合っておきましょう。また、災害の危険性が想定された場合には、情報を入力して、早めの避難を心がけましょう。



### 水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければいけません。そのような場合は、避難準備・高齢者等避難開始や避難勧告が発令されていても、かけや浸水区域から離れる(水平避難)だけでなく、近くの頑丈な建物の2階以上や自宅の2階といった高い場所へ移動(垂直避難)して救助を待つという判断も必要です。



### 避難所3つのマナー



### 大雨・洪水に関する注意報・警報について

次のような場合に、大阪管区気象台から「注意報」「警報」「特別警報」が発表されます。

大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報	大雨特別警報
災害が発生するおそれがある	重大な災害が発生するおそれがある	「警報よりもはるかに高い危険度」
大雨により、浸水災害や土砂災害などが発生するおそれがあるとき注意を呼びかける予報。	大雨により、重大な浸水災害や重大な土砂災害などが発生するおそれがあるとき予想したときに発表。	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、もしくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想したときに発表。
洪水、長雨などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による災害が発生するおそれがあるとき注意を呼びかける予報。	洪水、長雨、暴風などにより、河川の増水や氾濫、堤防の損傷や決壊による重大な災害が発生するおそれがあるとき予想したときに発表。	※洪水は、全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。

「特別警報」が発表されない場合でも、甚大な被害が発生する可能性があります。

- このほか、数年に一度の猛烈な雨が観測された場合には、気象台から、「記録的短時間大雨情報」が発表されます。この情報が発表された地域では、近くで災害の発生につながる事態が生じていることを意味しています。
- 大雨などのときには、テレビやラジオなどで最新の注意報・警報・特別警報の発表状況を確認するようこまします。
- 気象庁の天気予報電話サービス「177」(携帯電話・スマホからは市外局番に続けて「177」)や、気象庁ホームページ(<http://www.jma.go.jp/>)でも確認できます。 ※羽曳野市に注意報・警報が発表される際の雨量基準値などについては、気象庁ホームページで知ることができます。

### 災害時の情報入手先



### 地域の防災力を高めよう

災害発生時には、羽曳野市や関係機関は全力をあげて対応にあたりますが、火災や道路の寸断・断水・停電など様々な被害が広い範囲で起きた場合は、公的な機関の対応が困難になることが予想されます。このような場合には、地域ぐるみで協力し合い、助け合うことが大切になります。地域にて自主防災組織を結成して、防災知識を身につけることや、いざというときの役割分担を決めるなど、防災力を高めましょう。

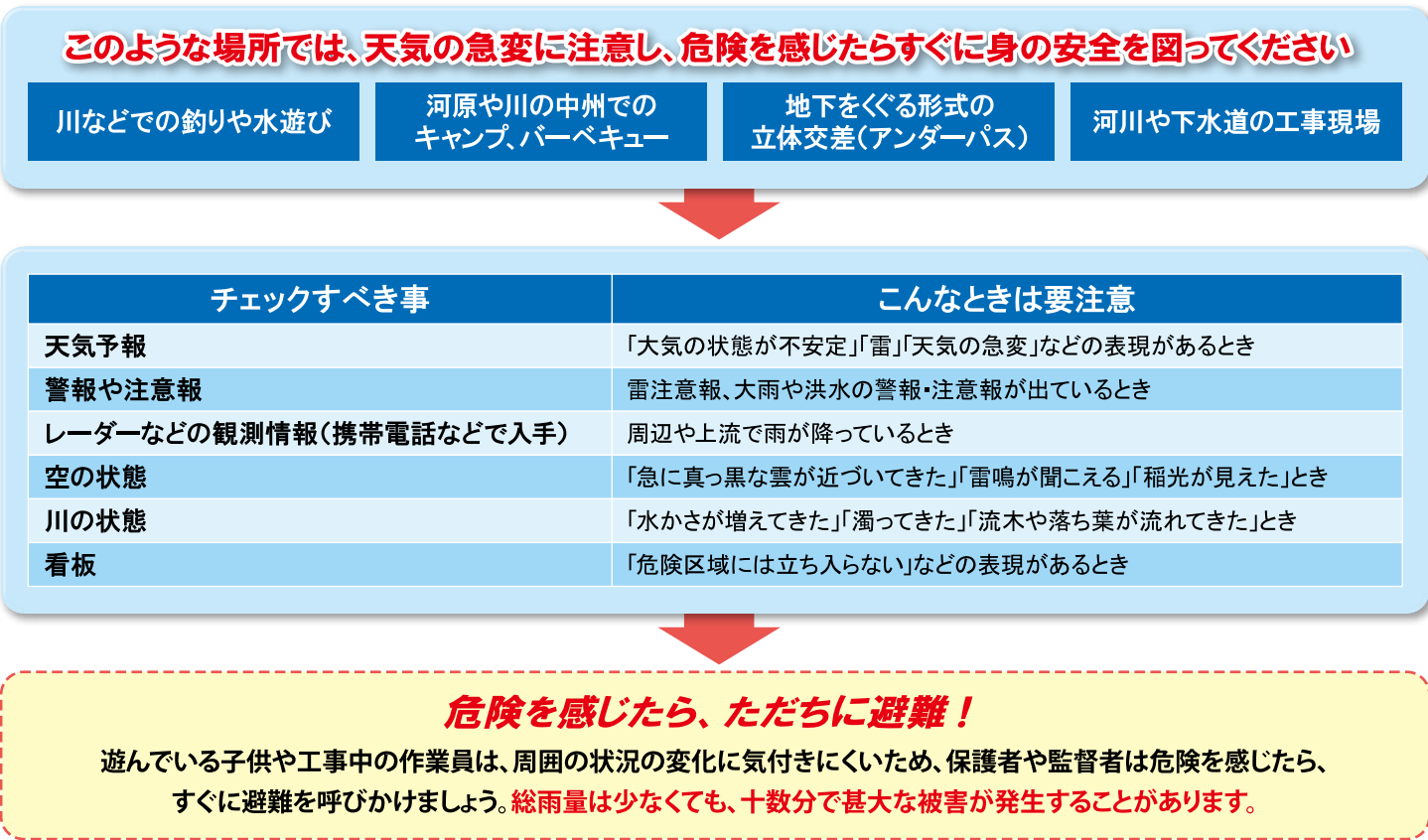


### 災害時要援護者について

災害時要援護者とは、高齢者や障がいのある方、難病患者などの災害発生時の対応に何らかの手助けが必要な人々のことです。また、避難所生活が必要となった場合などに要援護者の範囲はもう少し広がることが考えられます。具体的に、妊産婦や幼児、日本語を十分理解できない外国人の方々などが想定されます。羽曳野市では災害時要援護者支援のしくみ作りに取り組んでいます。地域で協力し日頃から声をかけあう関係作りや避難訓練を行い、災害時にスムーズな避難支援ができるようにしましょう。

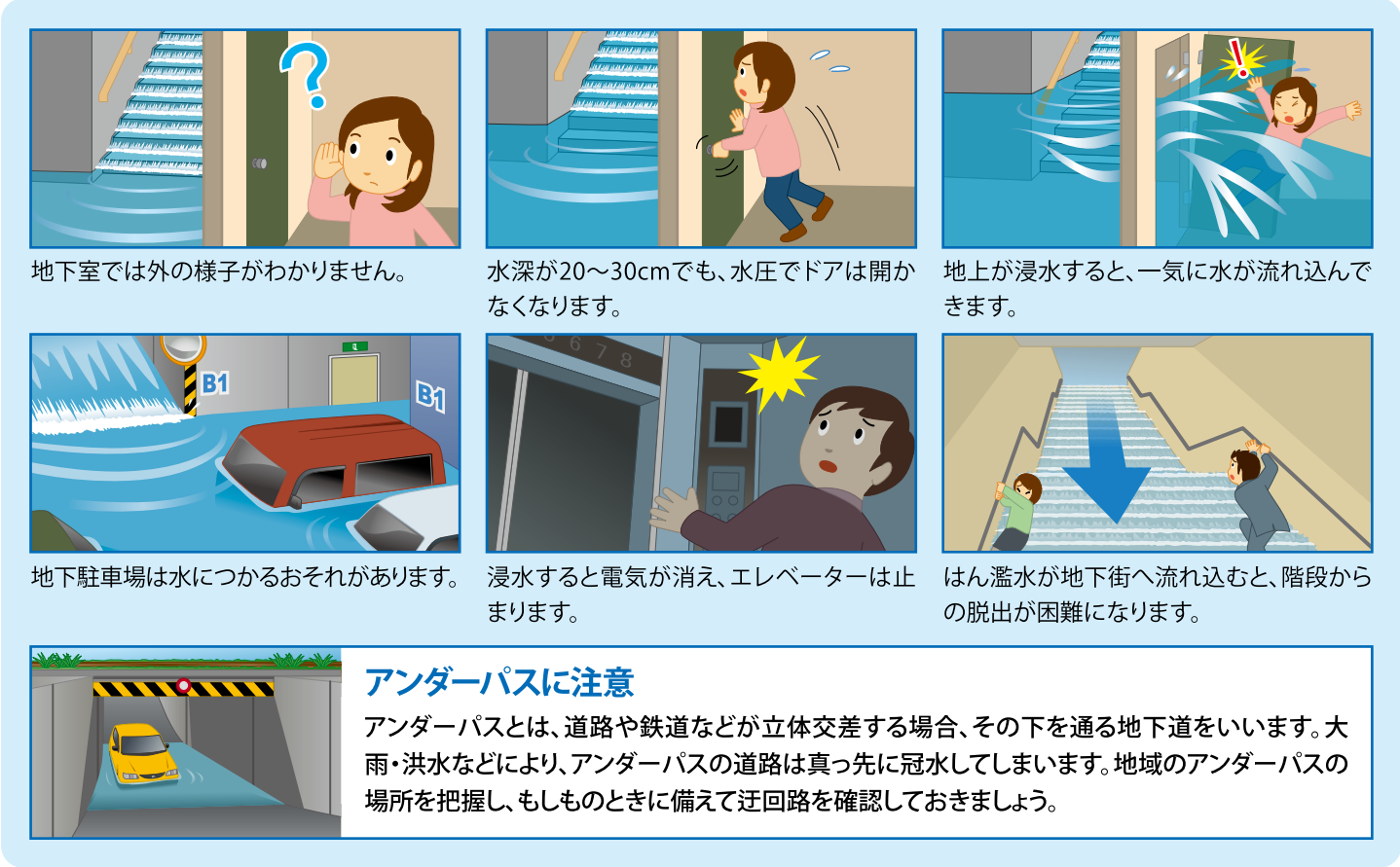


### 局地的大雨(ゲリラ豪雨)から身を守る



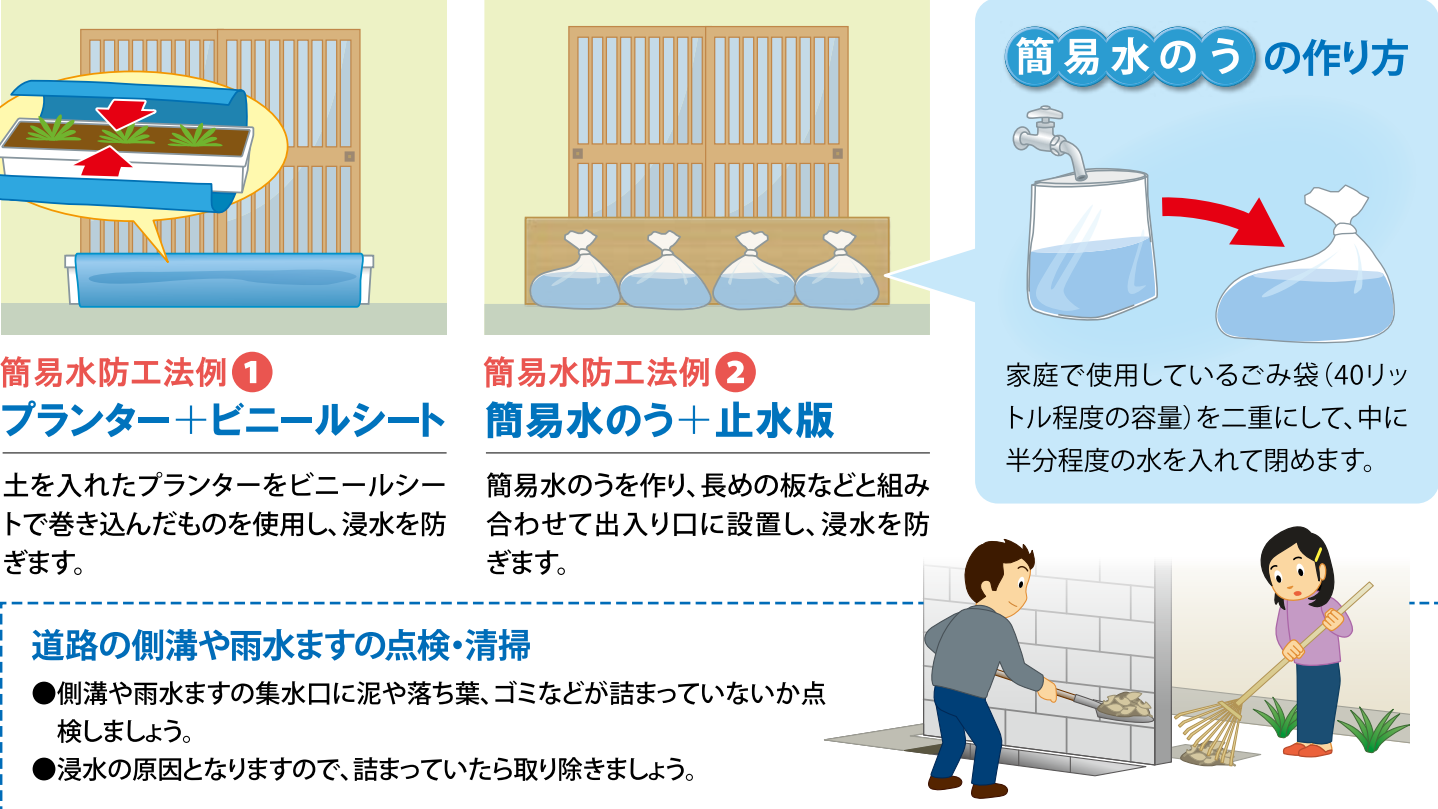
### 洪水・豪雨時の危険箇所

洪水や豪雨時の地下施設・地下室などは危険です。地下空間は、地上の浸水状況と大きく異なり、冠水や停電の危険性が高いため、特に早めの避難が必要です。



### 浸水への備え

浸水が浅い場合には、土のう(無い場合は水のう)を設置することで、水が建物へ浸入するのを防げます。簡易的な措置として、植栽用プランターや石油用ポリタンク、長めの板(はしごやテーブルでもOK)などを、ビニールシートで包んで設置してもよいでしょう。道路よりも建物が低い場合や、地下室がある場合などは、止水板を設置しておくこと、より効果的です。



### 非常持ち出し品

いざというときには、ただちに避難しなければなりません。そのようなときに備えて、非常持ち出し品を常備しておきましょう。

食料品	医薬品	衣料品
飲料水、缶詰、レトルト食品、赤ちゃんがいる人は粉ミルクと哺乳瓶など。	ばんそうこう、消毒薬など。普段飲んでいない薬も忘れずに。	衣類、下着、タオル、雨具、毛布や寝袋など。
貴重品	日用品	ラジオ
現金、通帳、印鑑、身分を証明できるもの。	懐中電灯、予備電池、マッチ、ライターやロウソクなど。	携帯できるもの。

この他に、災害復旧までの数日間分(最低3日分)の水と食料を、非常備蓄品として各自、各家庭の人数分を準備しておきましょう。貴重品は、通常時にはリュックサックなどに入れて、避難時に持ち出すようにしましょう。